

かわた なおき
3年 | 河田 直樹 さん [鳥取県立鳥取工業高等学校 出身]



鳥取のお気に入り

田舎ならではの自然が好き
北には紺碧の日本海、南側は中国山地に囲まれ
ている鳥取県は、田舎けど自然豊かで、とても
住みやすい所です。雨や雪が多いのは玉にキズ
だけど、鳥取県産の食材は美味しいものばかり！

国家資格取得がAO入試を後押し

地元ということもあり、高校入学時から鳥大工学部への進学を意識。高2の時に「水質関係第4種公害防止管理者」の国家資格を取得。合格率が約20%の難易度の高い資格で、さらに3年生の時には第1種も。資格取得で「AO入試でいけるのでは」という自信が芽生えました。高2、高3と2年連続でオープンキャンパスを訪れ、先輩の体験談を聞いて「鳥大生になりたい」という思いがますます高まり、AOで受験することに。面接練習で志望動機を丸覚えして話していたら、先生から「長くても聞く気が失せる」との厳しい指摘が。簡潔にまとめて伝えること、専門的なことを問われても答えられるよう心がけました。

事前準備を怠らなければ怖くない!

小論文は、学校で受ける小論文模試と過去問で練習。当日の課題は「事業仕分け」。少し前の話題だったので記憶があいまいで、「ヤバイ」と思いました。やはり気になるワード、世界の大きな出来事はある程度把握しておくことが大切ですね。過去問には必ず当たっておくこと。口頭試問で問われる英語・数学の基礎的な学力は、事前準備を怠らなければ大丈夫。自己推薦書や面接は自分自身をいかにアピールできるかなので、授業だけでなく高校でいろんな活動を行っておくと有利だと思います。大学ではダンス部に所属、部長を務めています。40人近くの部員をまとめるのは大変ですが、有意義な学生生活を過ごしています。

アドミッション・ポリシー

AO入試で求める人物像

募集人員(予定): 5人

【趣旨】高い基礎学力を有するだけでなく、温かい人間性を身につけるために、幅広い教養といろいろなものへの理解を深め、自ら課題を設定して解決していく自主性と個性豊かな人材の育成を目的としています。このため、従来の学力試験による選抜方法と異なり、能力、適性、意欲、関心などを多面的に総合評価するAO入試を実施します。

社会開発システム工学科が目指すソフトなエンジニアリング技術の研究・教育に興味を持ち、さらに次のような人を求めます。

- 社会や政治、経済に興味があり、新聞や論説をよく読んでいる人
- 日本だけでなく、外国の文化や人々の考え方を学ぶことに興味を持つ人
- いろいろな事柄の仕組みについて、過去のしきたりにとらわれずに新しく工夫することが好きな人

平成25年度AO入試第2次選考<選抜のポイント、面接・論文等の出題例等>

平成25年度AO入試がどのように行われたかについて、学部・学科の募集単位別にポイントや出題例を示したものです。平成26年度AO入試が下記のように行われるということではありませんので、ご注意ください。なお、AO入試の過去問題は、平日9:00~17:00に入試課(鳥取キャンパス)で閲覧できます。

全体を通して求める力

社会開発システム工学科では、社会や政治・経済および外国の文化や人々の考え方を学ぶことに興味があり、様々な事柄の仕組みについて、過去のしきたりにとらわれずに新しく工夫する人を求めます。

※ 第2次選考では、第1次選考の評価を加えることなく、第2次選考の評価結果のみを採用しました。

講義等理解力試験	試験時間の前半に、本学科の教育内容や研究内容に関するミニ講義を受験生全員が同時に受講し、その後、前半の講義内容に関する筆記試験を行いました。
小論文	学科のアドミッションポリシーおよび「AO入試で求める人物像」の要件への適合度を見るため、政治、経済、国際、環境などの社会的テーマ1つについて出題し、指定の文字数(例年約800字)の小論文にまとめてもらいました。特に、テーマの構造を論理立てて説明でき、自分の意見・考えを明確に記述できる能力を確認しました。なお、平成25年度入試での小論文テーマは「電力を中心とする今後のエネルギー政策はどうあるべきか」についてでした。
個人面接	社会的な事項への関心度、知的な探究心、学習意欲、自己アピール等について、5人の試験委員により約15分間の個人面接を行いました。
口頭試問	5人の試験委員により約15分間の個人試問を行いました。基礎学力(数学、英語)の確認を行い、小論文および講義等理解力試験の内容についても試問しました。

※ 工学部は平成26年4月に改組を予定しており、学科名が変更になる可能性があります。